

ベランダバードウォッチ 2019 年冬調査報告

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木県支部

2019 年冬は、全国的に暖冬で関東などの山地でも雪らしい雪が降りませんでした。そのためか、市街地付近ではアトリやシメなど冬鳥たちの姿が少なく、やや寂しい冬でした。このような異常ともいえる暖かな冬は、身近な鳥たちの生息状況に違いがあったのでしょうか。以下に、3 月 20 日までに届いたベランダバードウォッチのデータをもとに 2019 年冬の記録状況をまとめました。

調査状況

2019 年冬は、北海道から九州までの合計 61 名によって、家での調査 45 か所、家の周りの調査 54 か所で調査されました。調査地数は、家の周りでは昨年とほぼ同じでしたが、家での調査は大幅に増加して過去最多となりました（図 1）。調査地の地域を 8 区分に分類すると、関東地方が最も多く両調査とも全調査地の約 50% を占めました。今回は調査地数が少ないものの北海道や東北地方からも参加していただきました。この調査が徐々に広がっていることがわかりました。しかし、それぞれの調査地の調査状況をみると、調査回数が

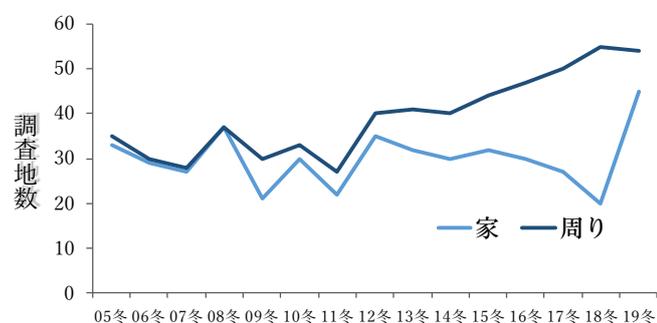


図 1. 調査地数の推移

1, 2 回だけの調査地もありました。このような調査地は、記録率の経年変化などの解析の際には除かれてしまいますので、できるだけ調査方法にしたがった調査をお願いできればと思います。

記録種

付表に、2019 年 10 月から 2020 年 2 月末（家での調査は 12 月 20 日から）までに記録された種をまとめました。家での調査は 60 種、家の周りは 117 種、合計 119 種（種不明を除く）が記録されました。記録種数は、両調査とも昨年冬とほぼ同じで、今冬も家の周りの調査の方が家での調査より多くの種が記録されました。家の周りの調査は、10 月から調査期間となるため、キビタキやコサメビタキ、カッコウ類などの夏鳥も含まれています。また、家の周りの調査は、家の調査よりも多様な環境を含むため、今回も湖沼や河川などの水辺の鳥や猛禽類なども多く記録されました。

記録率から見た 19 年冬の特徴

表 1 に、19 年冬と 18 年冬の記録率の高かった上位

表1. 家の周りおよび家での調査における記録率上位種の2019年冬と2018年冬の比較

| No. | 家の周りの調査 | | 家での調査 | |
|-----|---------|-------|---------|-------|
| | 2019年 | 2018年 | 2019年 | 2018年 |
| 1 | ヒヨドリ | 0.934 | ヒヨドリ | 0.905 |
| 2 | スズメ | 0.811 | スズメ | 0.761 |
| 3 | ハシブトガラス | 0.755 | ハシブトガラス | 0.728 |
| 4 | ハクセキレイ | 0.738 | キジバト | 0.707 |
| 5 | キジバト | 0.710 | ハクセキレイ | 0.696 |
| 6 | メジロ | 0.680 | シジュウカラ | 0.584 |
| 7 | シジュウカラ | 0.666 | ハシボソガラス | 0.571 |
| 8 | ハシボソガラス | 0.624 | ムクドリ | 0.552 |
| 9 | ムクドリ | 0.608 | メジロ | 0.517 |
| 10 | モズ | 0.481 | モズ | 0.401 |
| 11 | ツグミ | 0.473 | カワラヒワ | 0.386 |
| 12 | ジョウビタキ | 0.425 | ドバト | 0.386 |
| 13 | ドバト | 0.421 | ジョウビタキ | 0.347 |
| 14 | カワラヒワ | 0.386 | ツグミ | 0.341 |
| 15 | コゲラ | 0.298 | セグロセキレイ | 0.323 |
| | ヒヨドリ | 0.839 | ヒヨドリ | 0.853 |
| | スズメ | 0.710 | スズメ | 0.641 |
| | ハシブトガラス | 0.612 | ハシブトガラス | 0.628 |
| | メジロ | 0.549 | ムクドリ | 0.511 |
| | ムクドリ | 0.502 | ハシボソガラス | 0.489 |
| | ハシボソガラス | 0.424 | キジバト | 0.455 |
| | キジバト | 0.392 | メジロ | 0.437 |
| | シジュウカラ | 0.353 | シジュウカラ | 0.338 |
| | ハクセキレイ | 0.251 | ハクセキレイ | 0.268 |
| | ツグミ | 0.247 | ドバト | 0.212 |
| | ジョウビタキ | 0.204 | カルガモ | 0.199 |
| | ドバト | 0.165 | ツグミ | 0.186 |
| | カルガモ | 0.149 | カワラヒワ | 0.182 |
| | コゲラ | 0.110 | コゲラ | 0.156 |
| | シロハラ | 0.110 | シロハラ | 0.152 |

上位15種の出現種はどちらの調査地とも両年でほぼ同じ。また、上位3位までの記録種は順位も同じ。2019年と2018年の各種の順位をみると、2019年ではメジロ、ツグミの順位が2018年より高く、カワラヒワが低い。

15種を示しました。家での調査、家の周りの調査とも上位種の顔触れや順位は両年でさほど変わっていません。特に、上位3種はヒヨドリ、スズメ、ハシブトガラスで両調査とも18年冬と同じでした。改めてこれら3種が都市環境を代表する種であることがわかります。一方で、19年冬のメジロの記録率が両調査とも18年冬より高いことが見てとれます。メジロほどではないもののツグミとジョウビタキも記録率が高めでした。一方で、カワラヒワの順位は、両調査とも19年冬の方が18年冬より低いことがわかりました。家の周りの調査では本種の記録率は両年で同じでしたが、家での調査では19年冬（記録率0.086）は18年冬（0.182）よりだいぶ低めでした。

そこで、以下にメジロ、ツグミ、カワラヒワ、ジョウビタキの記録状況にスポットを当てて解析してみました。重複はあるものの、調査地は両年で異なっています。そのため、今回得られたこれらの種の記録率の違いは、両年の調査地の違いと関係している可能性もあります。そこで、2年間継続して調査された家の周り22か所、家23か所の調査結果をもとにこれらの種の記録状況を比較しました。

家の周りの調査による比較

家の周りの調査における2年間のメジロ、カワラヒワ、ツグミ、ジョウビタキの10月から2月末までの10日ごとの記録率の変動を図示しました（図2）。メジロの記録率は、同じ調査地だけで解析しても19年冬のほうが18年冬より全体的に高い結果が得られました。同様にツグミも多くの時期で19年冬の方が高い傾向がありました。ジョウビタキの渡来当初の10月の記録率は両年で同じでしたが、12月以降になると1月上旬を除き19年冬の方が18年冬よりやや高いことがわかりました。一方、19年冬のカワラヒワの記録率は、おおむね1か月ごとに変動を繰り返すものの、全体的に18年冬より低いことがわかりました。

このように記録率が両年で違うのは、記録した個体数の違いを反映しているのでしょうか。家の周りの調査では、個体数を概数で報告します。そこで、冬期単独で記録されることの多いジョウビタキを除いた3種の個体数ランクを19年冬と18年冬で比較しました（図3）。解析では、それぞれの種が2シーズンのうち1回

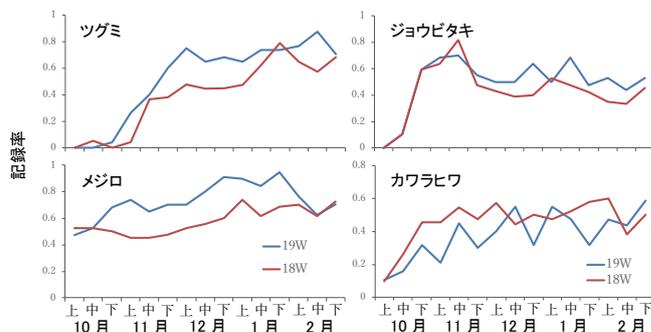


図2. 家の周りの4種の記録率の季節変動の比較

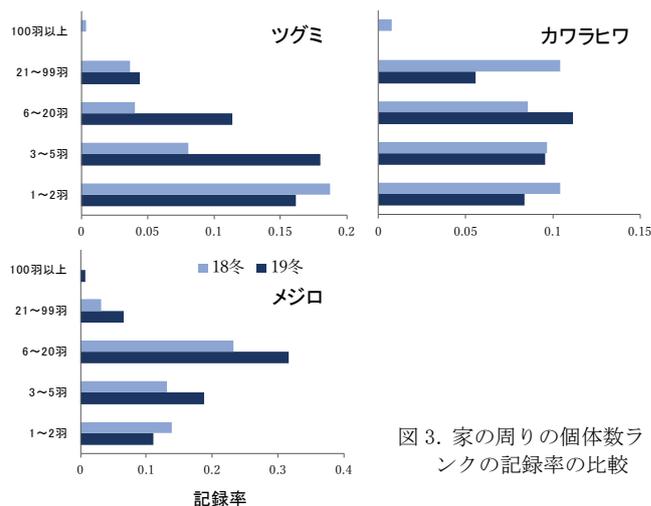


図3. 家の周りの個体数ランクの記録率の比較

でも記録された調査地をもとに、各年の調査回数の合計で各個体数ランクの調査地数の合計を除いて調査1回あたりの記録回数（記録率）を比較しました。なお、解析にあたっては、個体数の多寡を表さない「時々いる」を除きました。

まず、メジロは、1~2羽のランクでは18年冬の方が19年冬よりわずかに記録率が高いものの、他の4つのランクではすべて19年冬のほうが高いことがわかりました。ツグミは、1~2羽と100羽以上のランクで18年冬がわずかに高いものの、他の3ランクは19年の方が高い傾向がありました。一方で、カワラヒワは、6~20羽の記録率では19年冬の方が高いものの、他は18年冬の方が高いことがわかりました。特に、個体数の多い21~99羽のランクでの両年の記録率の違いが顕著でした。したがって、家の周りの調査では、19年冬はメジロとツグミが多く、カワラヒワは少なかったと言えます。

家での調査による比較

次に、家での調査の結果を用いてメジロとカワラ

ヒワの19年冬と18年冬の記録個体数の多寡を比較してみました。

2 シーズンのうち少なくともどちらかで記録された調査地は、メジロ21か所、カワラヒワ13か所でした。各調査地の記録個体数を比較するにあたって、調査地によって調査回数が異なっていたため、各調査地の記録個体数の合計を調査回数で除した平均個体数を両年で調査地ごとに比較しました(図4)

メジロの平均個体数は、19年冬の方が18年冬より多く記録された調査地が15か所、18年冬のほうが多かった調査地が5か所、ほぼ同じ調査地が1か所でした。

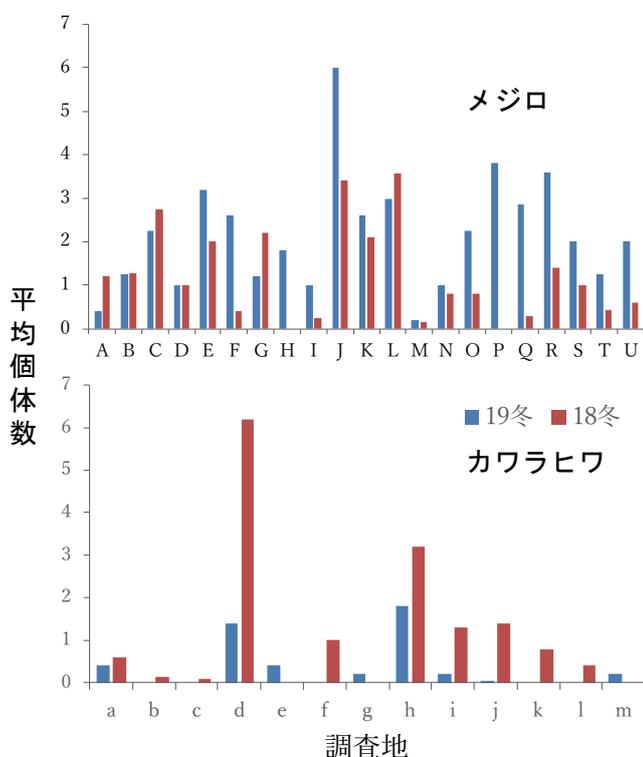


図4. 家での調査地のメジロとカワラヒワの2シーズンの平均個体数の比較

カワラヒワでは、19年冬の方が多く記録された調査地が3か所、逆に18年冬の方が多く記録された調査地が10か所でした。なお、ツグミも19年冬の方が18年冬より記録個体数がやや多い傾向にありました。

したがって、家での調査でもメジロやツグミは19年冬のほうが多く、カワラヒワは少なかったと言えます。

まとめ

以上のように、ベランダバードウォッチの調査地では、19年冬は18年冬に比べてメジロやツグミが多く記録された一方でカワラヒワが少なかったことが示唆されました。なお、19年のメジロは、17年冬と比較しても家の周りの調査地では記録率が高く、カワラヒワはやや低いことがわかっています。

このような19年冬における生息状況の違いはどのような要因と関係しているのでしょうか。メジロの秋冬期の食性は、主に昆虫類やクモ類などのほかカキやリンゴなどの果実、早春にはツバキやウメなどの花の蜜などです。19年冬は例年と比べ著しい暖冬だったことで、市街地の公園や庭木にも彼らの食物が豊富で、18年冬より多くの個体が生息したのでしょうか。あるいは、昨年の繁殖成績が良く巣立ちした若鳥が多かったのかもしれません。

また、ツグミやジョウビタキも暖冬の影響で食物となるミミズや昆虫類などが多いことで市街地に多かったのでしょうか。しかし、ツグミとジョウビタキは冬鳥でしかも地上で採食することが多い鳥です。とすると、暖冬で北日本や山地での積雪が少ない19年冬は、北日本や日本海側、山地に留まる個体が多く、今年の市街地に多い傾向と矛盾するようにも思われます。

一方、カワラヒワはこれらの種とは違い、記録個体数が少ない傾向にありました。カワラヒワは、冬期には公園などの植え込みで木の実を食べる一方で、刈り入れ後の田んぼで落穂などを群れで食べます。また、冬期のカワラヒワの中には冬鳥として飛来する個体もいます。昨年の秋は遅くまで高温だったため、関東北部の栃木県などでも刈り入れ後のイネの萌芽が伸び、結実した稲穂をつけた田んぼが多かったようです。そのため、郊外の農耕地で採食する個体が多かったり、積雪が少なかった北日本に留まる個体が多かったことで、ベランダバードウォッチの主要な調査地である市街地周辺に少なかった可能性があります。しかし、これらのことは推測の域をでません。19年冬のこれらの種の記録状況は偶然に得られた結果なのか、それとも気象要因や食物の豊富さなどと関係しているのかを明らかにするには、長年にわたった調査結果に基づいて解析する必要があります。

最後に

19年冬の調査は、秋の台風により各地で甚大な被害が発生したにも関わらず、調査に参加していただいた方が増加しました。この調査は自転車のペダルを漕ぐようにゆっくりと毎年同じ方法で継続した調査が不可欠です。全国の多くの調査地の長年にわたったデータに基づいた解析ができるように、今後とも継続した参加をお願いいたします。末尾ながら、以下に19年冬の調査にご参加いただきました皆様のご芳名を記してお礼に替えさせていただきます。

秋元玲子, 渥美美保, 阿部智, 天沼弘勝, 五十嵐勉, 五十嵐英世, 石口富實枝, 石原渉, 入船憲一, 瓜田英司, 大井智弘, 大出水幹男, 大塚啓子, 大向あぐり, 沖田絵麻, 加藤ななえ, 加藤美奈子, 川畑紘, 久保賢一, 黒沢令子, 小荷田行男, 小林俊子, 小堀脩男, 坂田樹美, 笹倉千江花, 佐藤司, 佐藤慶明, 嶋田昌行, 白石健一, 白

石ひとみ, 鈴木遼太郎, 須田由美, 大門明美, 大門聖, 高岡修史, 高橋佳子, 高山裕子, 武居佳子, 竹内敦子, 武谷由紀子, 辰巳文吾, 田中利彦, 塚島律子, 時田賢一, 富田恵理子, 長嶋宏之, 西川光一, 丹羽和夫, 広友詞子, 藤原淳子, bootsy, 古川紀美子, 古田和生, Holi, 三田長久, 宮崎朋子, 安田耕治, 横山多加子, 吉中康展, 吉邨隆資, 渡邊ケイコの各氏 (五十音順)

とりまとめ：平野敏明

付表1. 2019年冬のベランダバードウォッチ家および家の周りの調査で記録された種

| No. | 種名 | 家 | 周り | No. | 種名 | 家 | 周り | No. | 種名 | 家 | 周り |
|-----|-----------|---|----|-----|----------|---|----|-----|---------|----|-----|
| 1 | キジ | ○ | ○ | 41 | ハイイロチュウヒ | | ○ | 81 | ミソサザイ | | ○ |
| 2 | マガン | | ○ | 42 | ツミ | | ○ | 82 | ギンムクドリ | | ○ |
| 3 | オシドリ | | ○ | 43 | ハイタカ | ○ | ○ | 83 | ムクドリ | ○ | ○ |
| 4 | オカヨシガモ | | ○ | 44 | オオタカ | | ○ | 84 | クロツグミ | | ○ |
| 5 | ヒドリガモ | | ○ | 45 | サシバ | | ○ | 85 | シロハラ | ○ | ○ |
| 6 | マガモ | ○ | ○ | 46 | ノスリ | ○ | ○ | 86 | アカハラ | ○ | ○ |
| 7 | カルガモ | ○ | ○ | 47 | フクロウ | | ○ | 87 | ツグミ | ○ | ○ |
| 8 | ハシビロガモ | ○ | | 48 | カワセミ | ○ | ○ | 88 | ルリビタキ | ○ | ○ |
| 9 | オナガガモ | | ○ | 49 | アリスイ | | ○ | 89 | ジョウビタキ | ○ | ○ |
| 10 | シマアジ | | ○ | 50 | コゲラ | ○ | ○ | 90 | ノビタキ | | ○ |
| 11 | コガモ | ○ | ○ | 51 | アカゲラ | ○ | ○ | 91 | イノヒヨドリ | ○ | ○ |
| 12 | ホシハジロ | | ○ | 52 | アオゲラ | ○ | ○ | 92 | エゾビタキ | | ○ |
| 13 | キンクロハジロ | | ○ | 53 | チョウゲンボウ | ○ | ○ | 93 | キビタキ | | ○ |
| 14 | スズガモ | | ○ | 54 | ハヤブサ | ○ | ○ | 94 | オジロビタキ | | ○ |
| 15 | カイツブリ | | ○ | 55 | サンショウクイ | | ○ | 95 | スズメ | ○ | ○ |
| 16 | カンムリカイツブリ | | ○ | 56 | モズ | ○ | ○ | 96 | キセキレイ | ○ | ○ |
| 17 | キジバト | ○ | ○ | 57 | カケス | | ○ | 97 | ハクセキレイ | ○ | ○ |
| 18 | アオバト | | ○ | 58 | オナガ | ○ | ○ | 98 | セグロセキレイ | ○ | ○ |
| 19 | カワウ | ○ | ○ | 59 | カササギ | ○ | ○ | 99 | ビンズイ | ○ | ○ |
| 20 | ゴイサギ | | ○ | 60 | ミヤマガラス | | ○ | 100 | タヒバリ | | ○ |
| 21 | ササゴイ | | ○ | 61 | ハシボソガラス | ○ | ○ | 101 | アトリ | ○ | ○ |
| 22 | アオサギ | ○ | ○ | 62 | ハシブトガラス | ○ | ○ | 102 | カワラヒワ | ○ | ○ |
| 23 | ダイサギ | ○ | ○ | 63 | キクイタダキ | | ○ | 103 | マヒワ | | ○ |
| 24 | チュウサギ | | ○ | 64 | ハシブトガラ | | ○ | 104 | ベニヒワ | | ○ |
| 25 | コサギ | ○ | ○ | 65 | ヤマガラ | ○ | ○ | 105 | ベニマシコ | ○ | ○ |
| 26 | ヒクイナ | | ○ | 66 | ヒガラ | | ○ | 106 | ウソ | | ○ |
| 27 | バン | | ○ | 67 | シジュウカラ | ○ | ○ | 107 | シメ | ○ | ○ |
| 28 | オオバン | ○ | ○ | 68 | ヒバリ | ○ | ○ | 108 | イカル | | ○ |
| 29 | ツツドリ | | ○ | 69 | ツバメ | ○ | ○ | 109 | ホオジロ | ○ | ○ |
| 30 | カッコウ | | ○ | 70 | コシアカツバメ | | ○ | 110 | ホオアカ | | ○ |
| 31 | ケリ | | ○ | 71 | イワツバメ | | ○ | 111 | カシラダカ | ○ | ○ |
| 32 | イカルチドリ | | ○ | 72 | ヒヨドリ | ○ | ○ | 112 | ミヤマホオジロ | | ○ |
| 33 | タンギ | | ○ | 73 | ウグイス | ○ | ○ | 113 | アオジ | ○ | ○ |
| 34 | クサシギ | | ○ | 74 | エナガ | ○ | ○ | 114 | オオジュリン | | ○ |
| 35 | イソシギ | | ○ | 75 | オオムシクイ | | ○ | 115 | コジュケイ | ○ | ○ |
| 36 | ユリカモメ | | ○ | 76 | メジロ | ○ | ○ | 116 | ドバト | ○ | ○ |
| 37 | セグロカモメ | | ○ | 77 | セッカ | | ○ | 117 | ホンセイインコ | ○ | ○ |
| 38 | ミサゴ | ○ | ○ | 78 | キレンジャク | ○ | ○ | 118 | ガビチョウ | ○ | ○ |
| 39 | トビ | ○ | ○ | 79 | ヒレンジャク | ○ | ○ | 119 | ソウシチョウ | ○ | ○ |
| 40 | オジロワシ | | ○ | 80 | ゴジュウカラ | | ○ | | 合計 | 60 | 117 |